腎臓グループ

2019年12月31日までのデータ

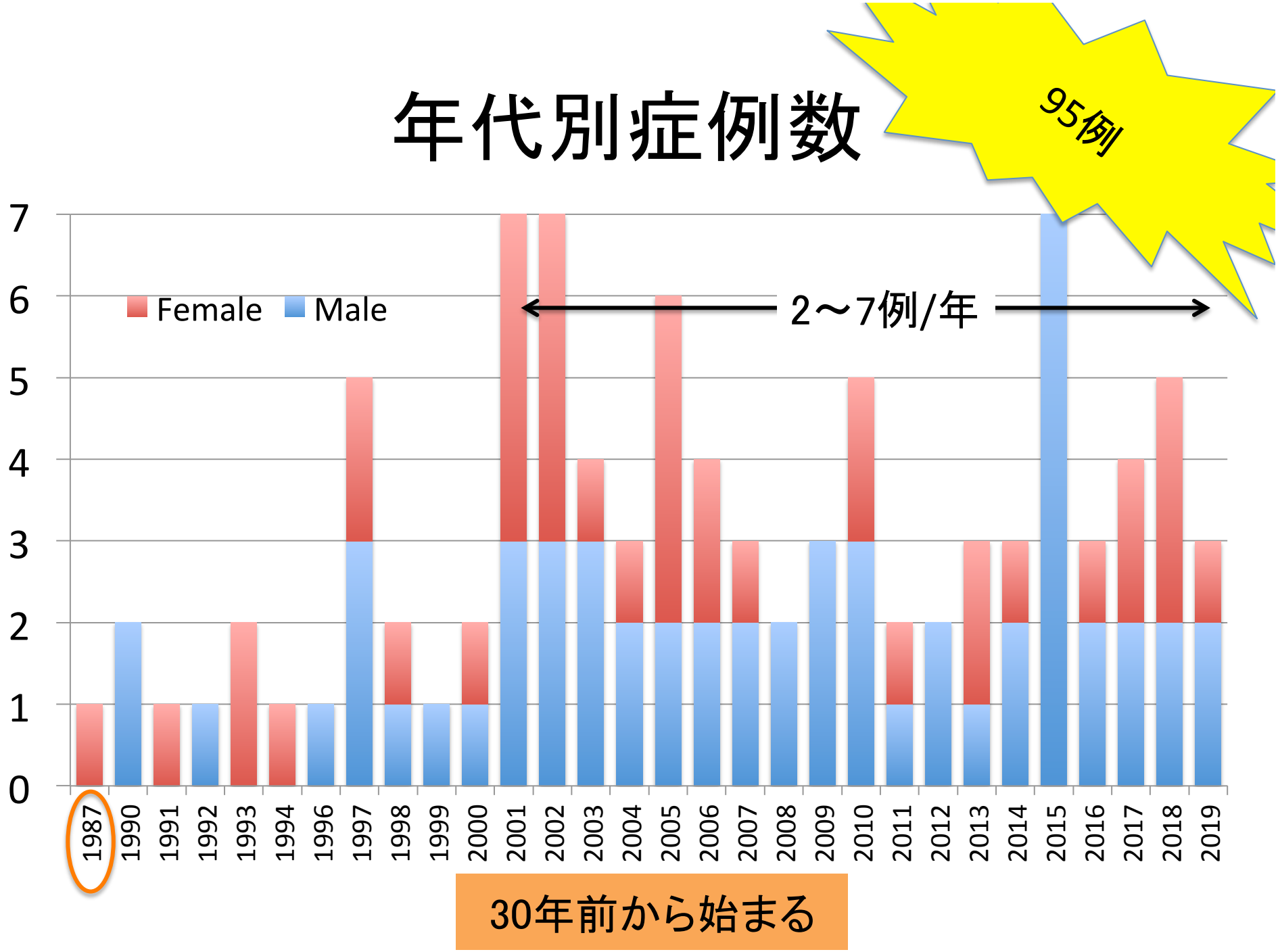
特徴

- 腎臓病総合医療センターの小児科部門としてチームで治療にあたっており、2012年に小児腎臓科が新設された。
- 対象疾患：腎炎、ネフローゼ症候群だけでなく、尿路疾患、腎不全、腎移植と幅広く対応している
- 腎移植の症例数：日本のトップレベルにあり、東海地方だけでなく、北陸、大阪からも来院
- 基本理念：腎疾患というハンディを持ちながらも、自立した社会人になることを最終目的としている。発達や社会性の獲得を妨げる長期入院や不必要な安静を避け、全人的な管理をしている。特に腎移植外来では、小児看護専門看護師と移行期医療(Transition)に関する取り組みを行っている。
- 研究：NCKiDs(名古屋市立大学の腎臓グループ)で、治療プロトコールの作成、様々な臨床治験にも参加している。

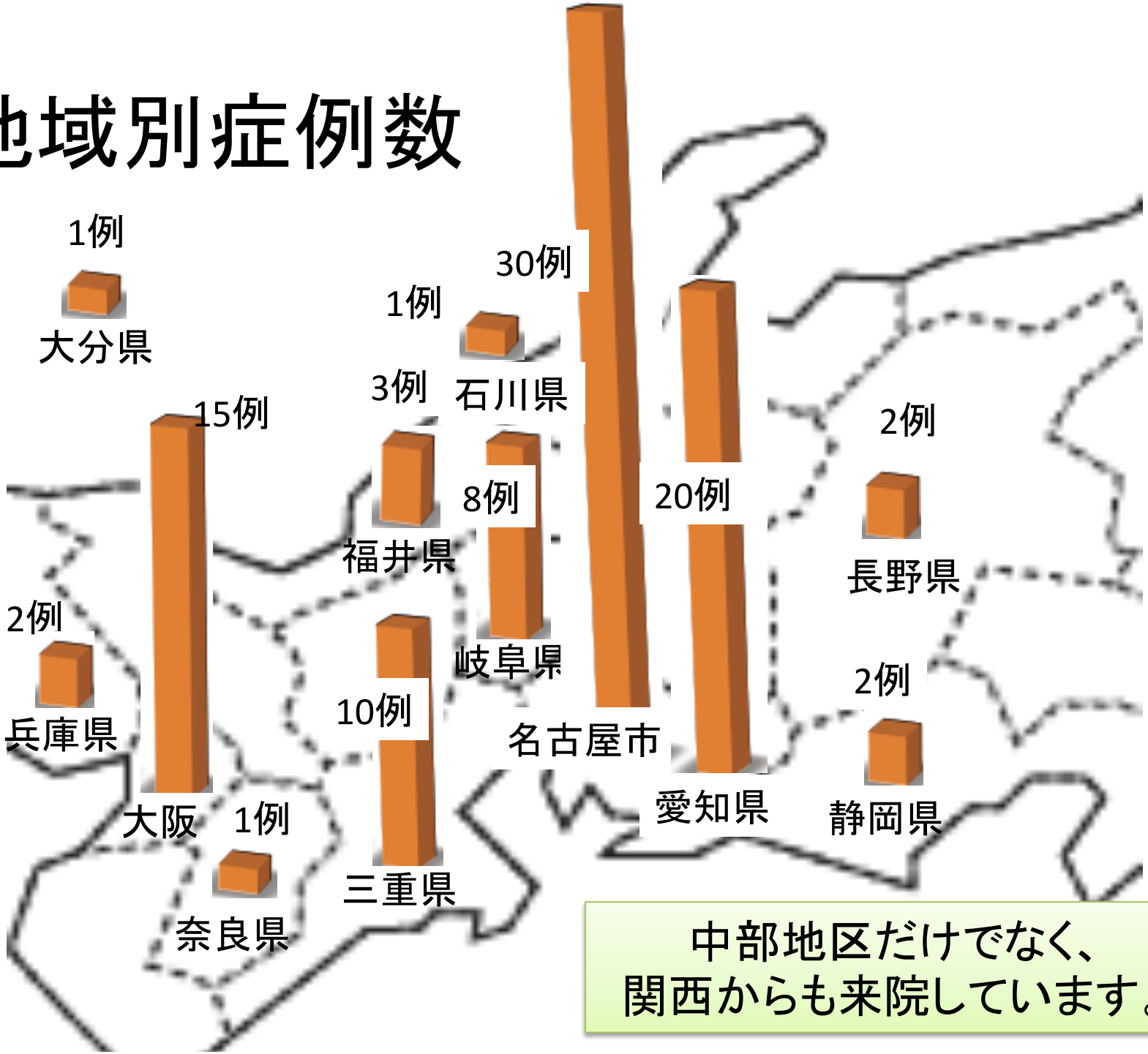
症例数	2014年	2015年	2016年	2017年	2018年	2019年
慢性糸球体腎炎	9	16	9	8	2	3
IgA血管炎	17	17	21	10	9	7
紫斑病性腎炎	10	9	4	4	2	4
ネフローゼ症候群	19	13	15	4	14	10
急性糸球体腎炎	0	0	2	2	1	3
溶血性尿毒症症候群	1	0	0	2	1	1
巣状糸球体硬化症	0	2	0	0	2	1
膀胱尿管逆流症	5	6	6	2	1	3
尿路感染症	11	32	26	47	18	15
水腎症	14	12	11	20	16	17
夜尿症状	8	11	18	13	13	10
昼間遺尿	16	14	14	14	13	8
腎移植	4	3	3	4	6	6
慢性腎不全(透析導入)	1	1	2	1	0	2
その他	59	61	63	81	64	94
計	174	197	194	212	162	184
腎生検	47	58	48	38	36	30

当院の特徴である
小児腎移植の成績

年代別症例数

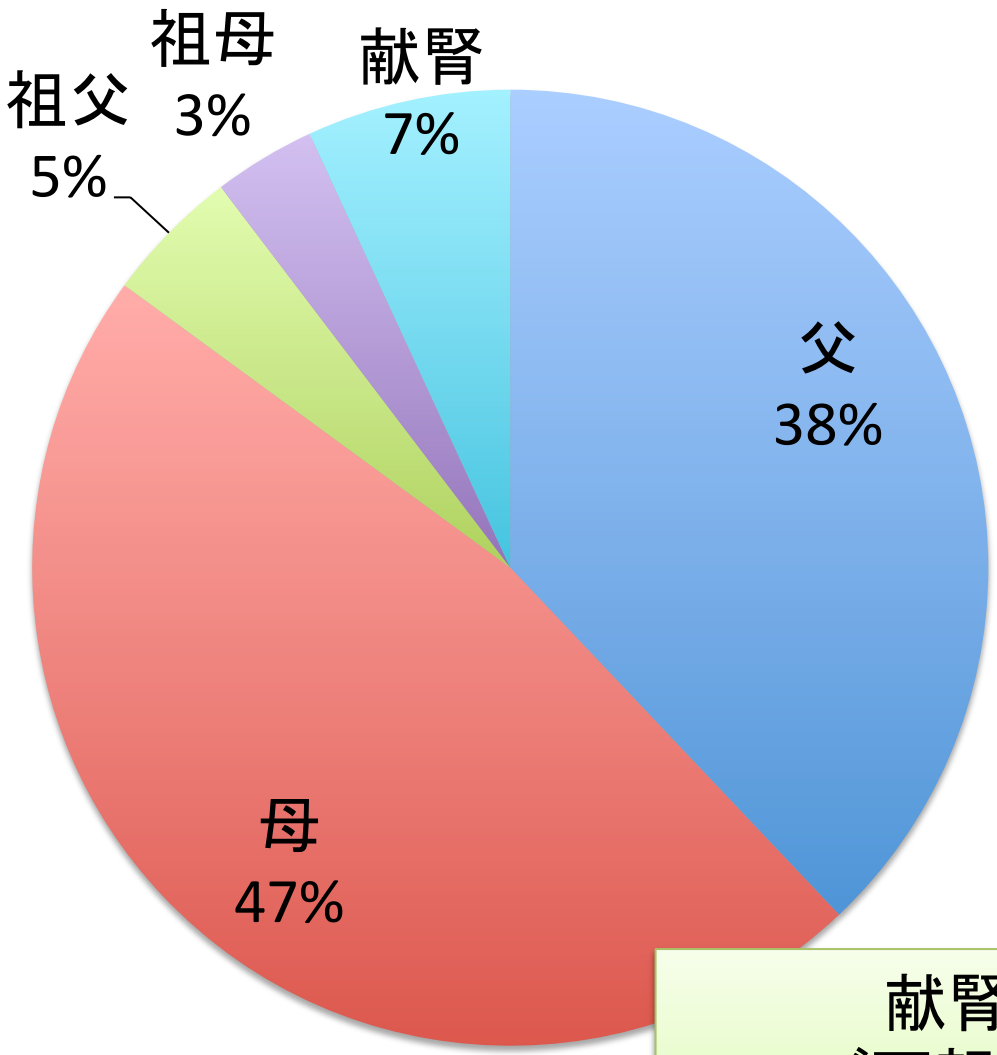

95例
Female
Male
2～7例/年
7
6
5
4
3
2
1
0
1987
1990
1991
1992
1993
1994
1996
1997
1998
1999
2000
2001
2002
2003
2004
2005
2006
2007
2008
2009
2010
2011
2012
2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
30年前から始まる

地域別症例数



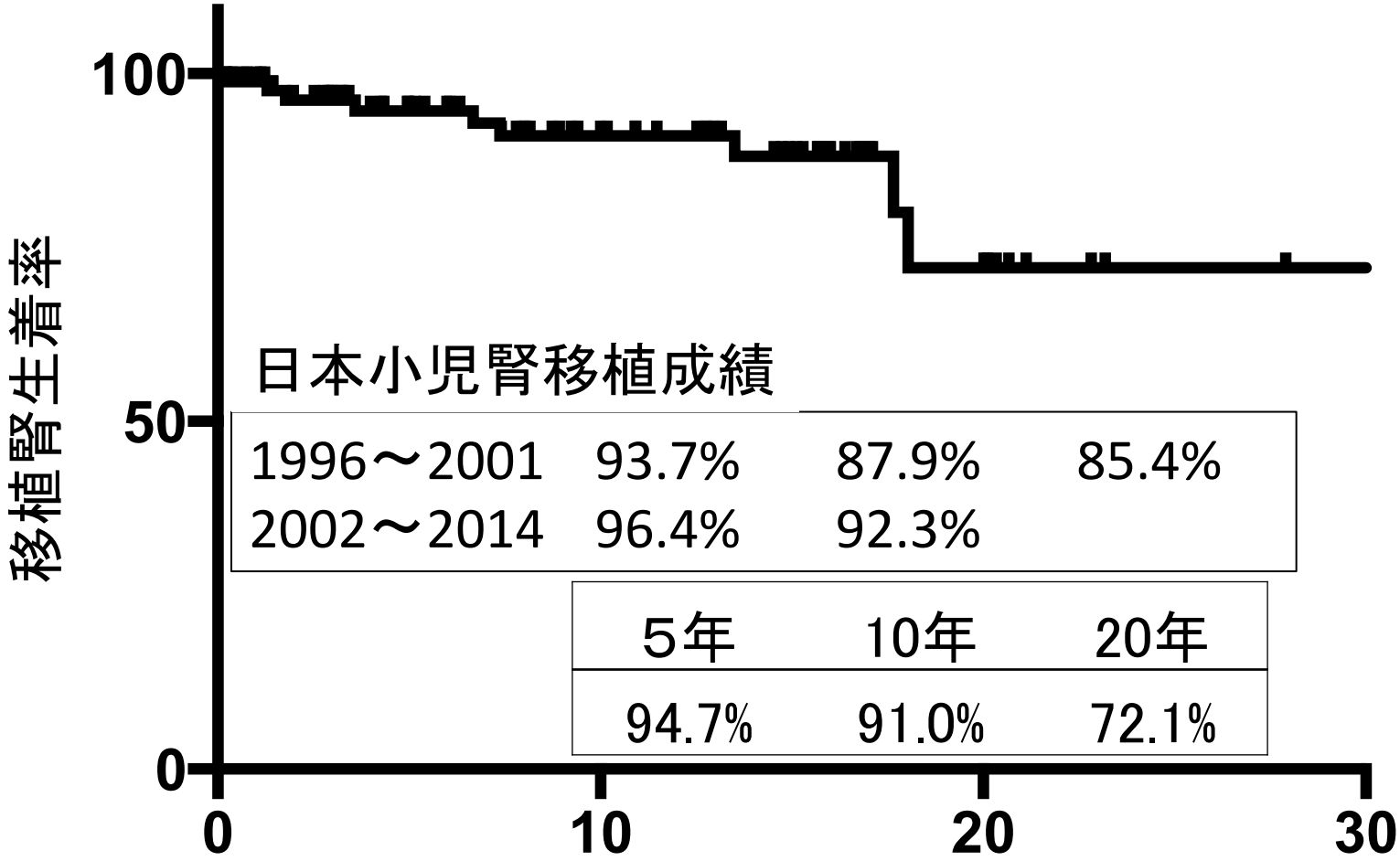
中部地区だけでなく、
関西からも来院しています。

ドナー



献腎は少なく、
ご両親が多いです。

生着率



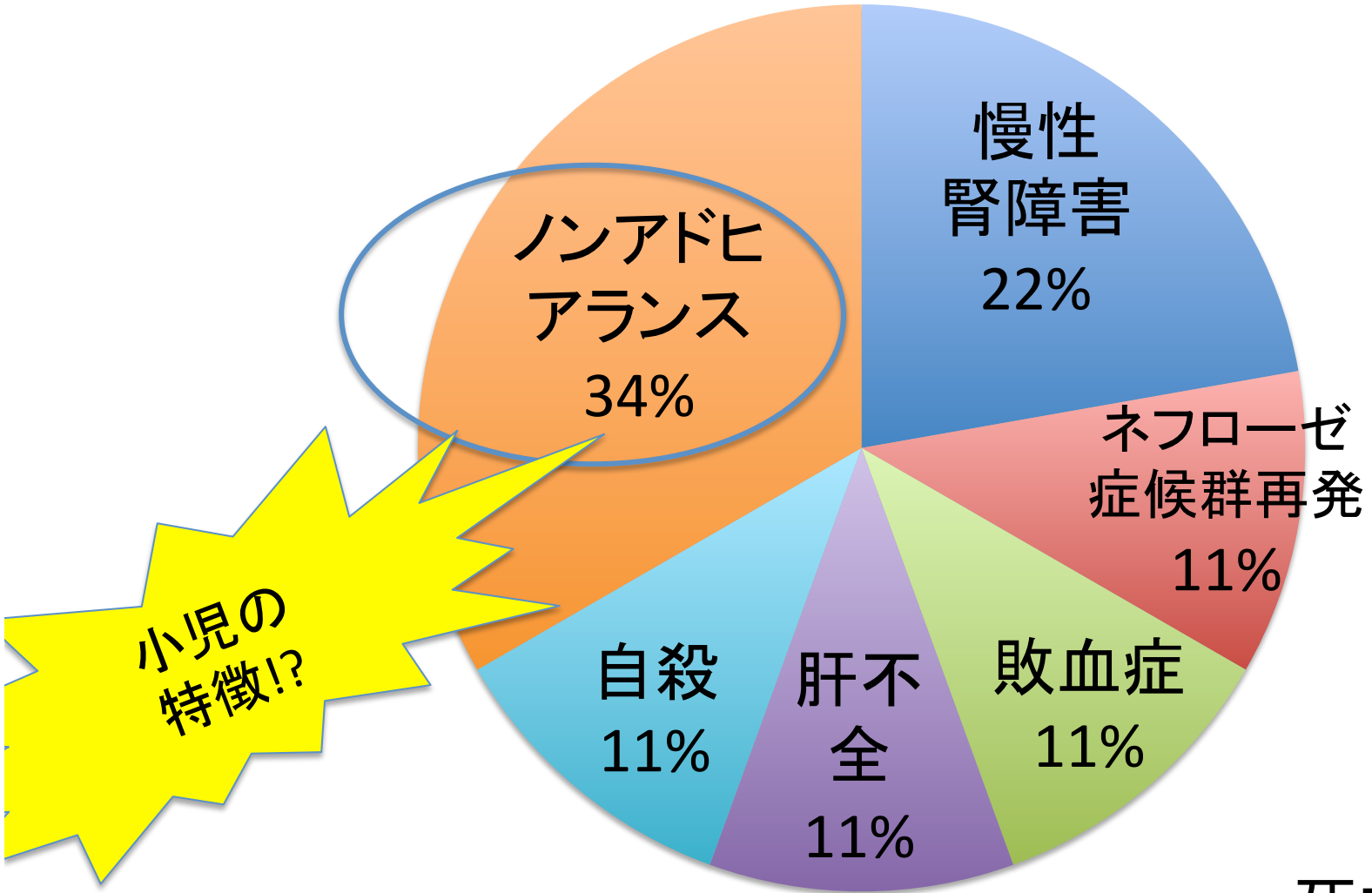
日本小児腎移植成績

1996～2001	93.7%	87.9%	85.4%
2002～2014	96.4%	92.3%	

5年	10年	20年
94.7%	91.0%	72.1%

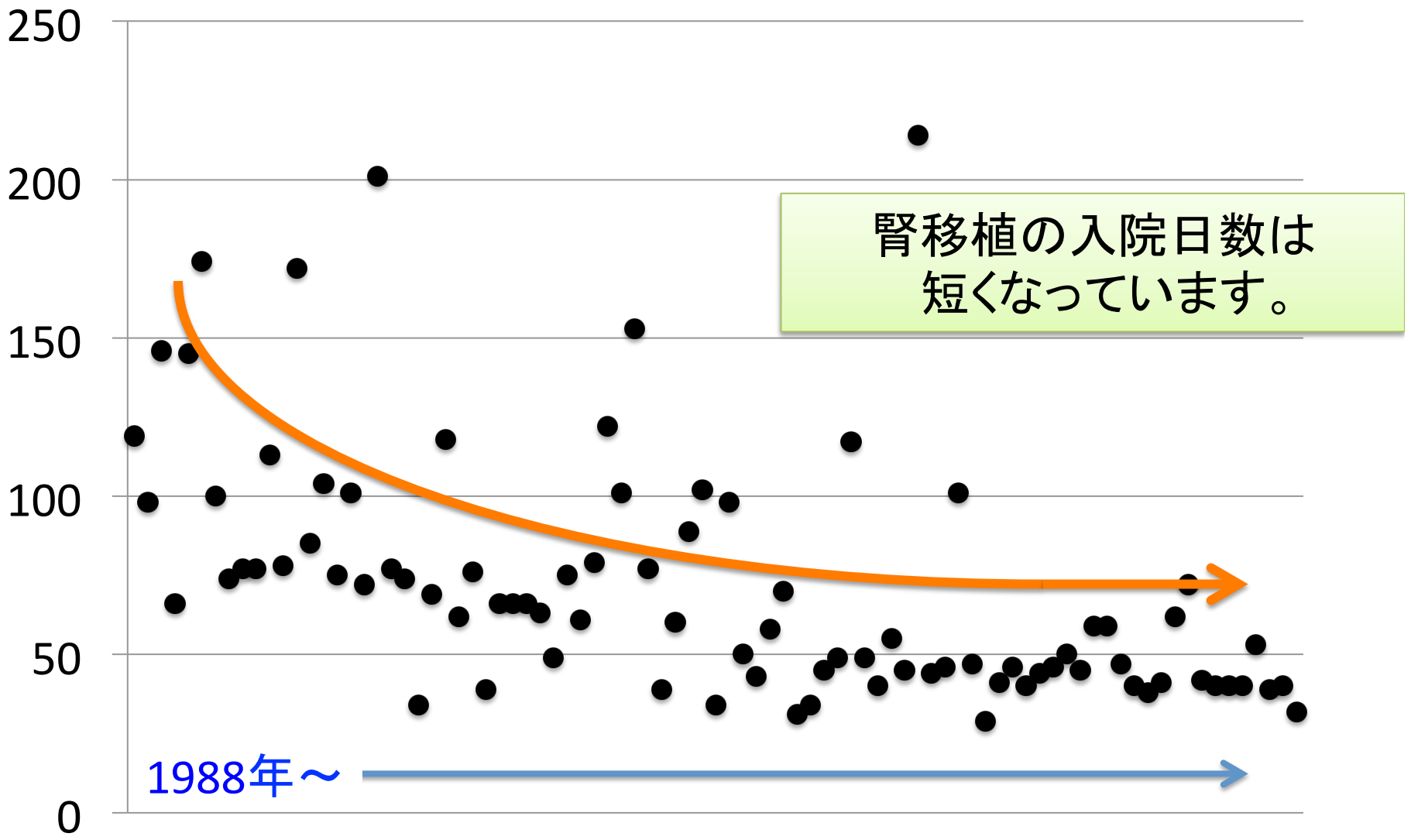
平均生着率は
20年を超えています。

移植腎廃絶の原因(9例)



死亡 3例

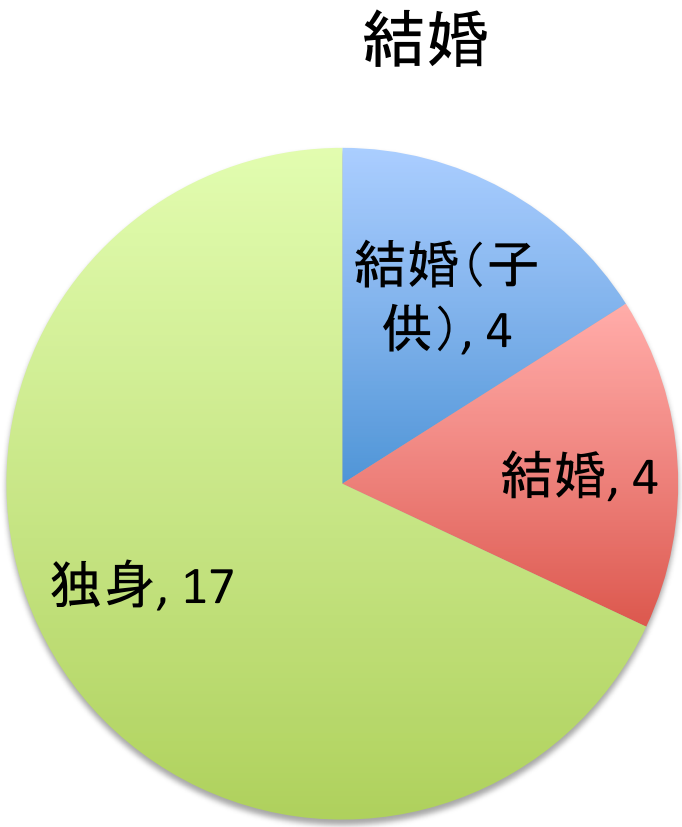
腎移植入院期間(日数）



社会生活等

私たちの
最終目標は
自立!

大学生	6	保育士	1
薬剤師	3	銀行員	1
アパレル	2	ホテルマン	1
公務員	2	作業所	1
美容師	1	バイト	1
介護士	1	発達遅延	1
会社員	1	無職	1
管理栄養士	1	その他	1



一般の人と遜色のない結果です。

まとめ

我々の目標は、患者さんが、
腎疾患というハンディを持っていても、
自立して、立派な社会人になってもらうことです。

貢献できていると考えています。